

青雲之志

～町長コラム～

日野町長 堀江 和博

日野の聖徳太子

今年には聖徳太子薨去1400年の節目の年ということで、近江ゆかりの地とされる東近江地域2市2町で「近江の聖徳太子魅力発信事業」が行われています。先月21日には太郎坊宮にてオープニングセレモニーが開催され、翌22日には近江八幡市の観音正寺にて秘仏のご開帳が行われ、大いに盛り上がりました。

さて、町内にも太子様とご縁のある寺社などが多数あります。太子様は、四天王寺を建立するために綿向山山麓の木材を活用され、それに感謝するため多くの寺社を建立されましたが、その一つが松尾の「正明寺」です。本堂が御所の清涼殿を下賜されたものであることから、朝廷との深いつながりを感じることができます。

中山の「金剛定寺」は、太子様が

霊木に十一面観音の座像を刻み、これを安置する寺院を建立したのが始まりとされています。また、太子様は綿向山や竜王山を貴い山としておまつりし、水を守る十一面観音を刻まれました。当初は建立したお寺に安置されましたが、後に別院であった「西明寺」に移されました。

悪さをする人魚を太子様が供養し、石と化した人魚が往来の安全を守る神としてまつられたものが小野の「人魚塚」です。杉にある「大屋神社」は、太子様が蘇我馬子に命じて四天王寺の用材確保のために仙人を呼び寄せ、安全を祈願して勧請したのが始まりです。川原の「妙楽寺薬師堂」の薬師如来像は、太子様が病気になった馬子の平癒を祈って刻んだものと言われています。

このように町内にはゆかりの文化遺産が多数あります。近江日野商人が活躍した江戸時代、蒲生家が活躍した室町・戦国時代のみならず、それ以前の時代にも多くの魅力的な歴史や文化があります。当事業を契機に日野町のもつ文化遺産の奥行きとその魅力が再認識されることを願います。

健康推進員おすすめ料理

減塩・野菜350g摂取で生活習慣病予防

お豆のミネストローネ

材料(2人分)

- にんじん …………… 30g
- たまねぎ …………… 30g
- じゃがいも …………… 50g
- ウインナー …………… 2本
- ミックスビーンズ …… 80g
- オリーブ油 …………… 小さじ1
- 無塩トマトジュース … 150mL
- 水 …………… 120mL
- 顆粒洋風だしの素 …… 小さじ1/2
- パセリ(あらみじん切り) … 適量

作り方

- ①にんじん、たまねぎ、じゃがいもは1～1.5cm角に切る。ウインナーは1cm幅に切る。
- ②鍋にオリーブ油を入れて熱し、にんじん、たまねぎ、じゃがいもを加えて炒め、無塩トマトジュース、水、顆粒洋風だしの素を入れて4分煮る。
- ③②にウインナー、ミックスビーンズを入れて3分煮る。器に盛り、きざみパセリを散らす。



健康推進員のおすすめポイント

色とりどりのお豆がアクセントの子どもに人気の高いメニューです。トマトジュースを使うので、とってもお手軽にできます。

(1人分)食塩相当量…0.9g/野菜の量…107g

◆問い合わせ先 日野町健康推進協議会事務局 福祉保健課 保健担当 ☎0748-52-6574

温故知新

日野歴史探訪

私達の住む日野町には、52の大字があり、それぞれの地域が豊かな自然と歴史文化でいろどられています。温故知新では、町内各大字の歴史と代表的な文化をシリーズで紹介していきます。

中世の有力者が眠る 大谷古墓

昭和48年(1973)に行われた発掘調査で、大谷公園の南西にあたる丘陵部分から、平安時代の末から室町時代にかけて造られた13基の火葬墓が発見されました。そしてそこから、墓石と考えられる蔵王産米石製の五輪塔や石仏とともに、周囲に川原石を積んだ区画が見つかりました。さらにその内部には、石室や土坑(素掘りの穴)が設けられており、蔵骨器(いわゆる骨壺として転用された東海や北陸地方、あるいは中国製の高級陶磁器が納められていました。

県内屈指の優れた仏像

国の重要文化財である金剛寺の本尊「聖観音立像」は、高さ106センチで、檜材寄木造りの仏像です。(台座と光背は江戸時代の後補)

この像は平安時代後半に造られながら、平安時代初期の彫刻を手本にしたような点がみられます。実はこうした特徴は、鎌倉時代の作風にみられることから、平安時代から鎌倉時代への過渡期の様相を伝える像となっています。さらに、彫刻などに見られる洗練された完成度は、町内はもとより、県内でも屈指の優作と評価されています。



木像聖観音立像(金剛寺蔵)



出土した陶磁器の数々

大字大谷

大字大谷は、日野地区の北西部にあたり、東は松尾、西は山本、南は上野田、北は中在寺と安部居に接しています。古代から中世にかけては、藤原摂関家ゆかりの莊園「日野牧」の一部と考えられています。

仁正寺藩市橋家 ゆかりの寺(金剛寺)

寺伝によると金剛寺は、聖徳太子開基と伝えられています。

『近江蒲生郡志』によると、南北朝時代には一時、臨済宗の名僧絶海中津が入寺したとされ、当時、近江守護六角氏に請われて永源寺(東近江市)を開いた寂室元光が、金剛寺に來遊して詩を詠んでいます。

その後、戦国時代中頃の文亀、大永年間に、兵火により荒廃し、やがて江戸時代前半の元文から寛保年間に禅僧の懐州が小庵を建てたとされます。

そして、

そこに鷹狩りをしていた領主の市橋直拳(仁正寺藩五代藩主)が偶然訪れた



市橋直拳像(金剛寺蔵)

ことで、再興の機運が高まったのでした。

その結果、延享2年(1745)に、八幡町(近江八幡市)の豪商岡田八十次(おかだ やそじ)の寄付を受け寺堂の復興が行われたほか、同じく八幡町の八幡社神官杉山氏宅の仏像を本尊として招請しました。さらに、その修理にも八幡町の西川氏や河原田村の谷田氏などの寄付を受け、再興が進みました。

また、市橋氏も寺領10石を寄進するなど援助を行ったことから、金剛寺には市橋直拳の肖像画などが祀られたのでした。

◆問い合わせ先 近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」 ☎0748-52-0008